



慶應義塾大学ビジネス・スクール

小田尚子

5

— その後の 3 年間 —

最初の 1 年目

10

株式会社 A-B-C ジャパンで仕事していて、1 年経つのはあっという間だ。この 1 年間で表現するには「モラトリアム」という言葉がぴったりだと思う。

この間、小田は A-B-C ジャパンで仕事を続けながら、パン作りのプロフェッショナルを養成するスクールの 1 年間週末コースに通い、全課程を修了した。パン屋を起業するにしても、パン職人としての技術を身につけることが先決だと考えたからだ。

15

パン作りは奥が深く、やればやるほど面白くなり、1 年経っても飽きるどころか、いつか自分で店をやってみたいという気持ちは強くなるばかりだった。いきなり開業するのは無理としても、パン屋に就職するには十分なレベルの技術も身についたと自負している。

しかし同時に、パン業界のおかれている状況や労働環境、店舗経営の現実も見えてきた。パン職人の仕事は典型的な労働集約であり、大規模なパンメーカーでない限り、社員の給与は驚くほど低かった。そしてオーナーとして安定した店を持つことで、ようやくそれなりの生活ができるというビジネスであった。また、参入障壁がほとんどないため開業するパン屋も多いが、それ以上に廃業する店が多かった。好きなことをやっているという満足感だけで、この先 10 年、20 年という長い期間、ぎりぎりの生活が続けられるだろうか。毎日の仕事をこなすことで精一杯の生活をしていくうちに、パン屋が「楽しい」とさえ思えなくなるのではないか。パン屋にこれからの人生をかけるのは、あまりにもリスクが高いことを痛感せざるを得なかった。

20

25

本ケースは、慶應義塾大学 SFC 研究所上席研究員（訪問）松澤佳郎が作成したもので、経営に関する適切あるいは不適切な処理を例示するものではない。なお、ケースの内容は偽装されている。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 松澤佳郎（2011 年 2 月作成）